



・ 観察適期は1回目7月下旬～8月上旬、2回目8月下旬～9月上旬  
 年次によって発生密度にばらつきがあるため、1回目の調査で密度が低い場合は、次世代の若虫の発生ピークとなる8月下旬～9月上旬に2回目の観察を行う。



営巣中のアシナガグモ類



葉上に静止するアシナガグモ類

・ アシナガグモ類の特徴

アシナガグモは、ふくらんだ棒のように見える細身の体を持つクモで、成虫の体長はおよそ10～15mm程度である。前脚を主体に脚も細長く、葉の上で静止している時には脚をまっすぐ伸ばしている。

巣は繁茂したイネ上面の畦間に水平に張られている。早朝には夜露が付着して目立つ。巣を見つけたら、静かに近づけば巣の中にいるクモを観察することができる。外敵に気づくと巣から逃げだし、近くの葉に止まって脚をまっすぐ伸ばし細長くなって隠れることが多いので、注意深く観察すると発見することができる。

・ 水田内を400株程度観察

水田内を見歩きする。左右2畦、合計4畦を対象に10m、合計400株程度を観察する。

・ 捕食行動を観察できる

巣の中にいるアシナガグモを見つけたら、驚かさないようにそのまま静かに観察してみる。ヒメトビウンカなどが網にかかると、素早く動いて捕獲するところを見ることができる。